

ロータスルート

さあ、つながって行こう!! みんなで花を咲かせよう!!

Report

<http://www.myohokkein.jp/>

2022年(令和4年)5月13日発行
「ろおたす」からの〜通算415号

Vol.34

日蓮宗

正中山別院
護国山妙法華院

〒652-0816 神戸市兵庫区永沢町4-5-8
TEL(078)575-2608 FAX(078)577-7651
kobe@myohokkein.jp

過去の生死 現在の生死 未来の生死

三世の生死に法華經を離れ切れざるを

大火に焼かると
見るときも我がこの土は
安穩にして
天人常に充滿せり

なせ人間は、
戦争という
大量無差別殺人を
平気でするのですか

人間に生まれたと
言うことは
供養もできるし
功德も積める、
魂を自分で
磨ける最大の
チャンスでしょ。

死んだというのは、
今から見た過去の
できごとだね。
これからと言うのは、
今の瞬間から見た
先の事だね。過去にあた
出来事は変えられない。
けれども意味は変えられる。
そして未来は今、ダッパが
どうするかによって
変わってくるよ。

自分だけという
我欲を捨て、
私達も供養に下され

地獄といのは、
貴様の
心の中にあるのじゃ

オイオイ本当に
死んだのか?
おれたちは今、一体
どこにいるんだ?
これからおれたちは
どうなるんだ?

おきらく
日記

慈悲喜捨 2022年3月19日(土)

動物供養碑に納骨したペットが、もう500体以上になります。最近はお参りする人の数も増え、人間の納骨堂より参拝者の数は多いかもしれません(^_ ^) お花も途切れることなく、いつも綺麗な花で一杯です。結構、毎日のお手入れも大変になってきたので、思い切って「賽銭箱」を設置しました。動物供養にお参りの際には、少しでもご協力頂ければ有り難く存じます。頂いた浄財は、動物供養碑の環境を整える費用に充てて大切にに使わせて頂きます。

あの世もこの世も繋がっている

私達の命は、死んだらどうなるのでしょうか? 幽霊とか靈魂、ひとだまや心霊、ゴーストなんて色んな表現がありますが、ここでは「あの世」の命の呼び方を「魂」という言い方で統一します。まずあの世には、物質そのものが存在しません。そしてあの世は私達の世界から遠くにあるものではなく、ごく身近にある世界です。人間界にも時が流れています。あの世でも同じように時間は流れています。そして魂はいずれ転生するので、ずっとあの世に留まるモノではなく、常にあの世とこの世を行き来し循環しているのです。

あの世って、どうよ?

皆さんは、死後の世界を信じますか? 檀家さんであれば、あの世があると信じているからこそ、法事をしたり供養をしたりするんですよ。しかし人間の眼では見えない世界です。そんな世界でも赤外線とかX線とかメタリウム光線とか、何かを照射して浮かんだり現れたり、実証されれば確信できるのでしょうか、そういった人間の英知では、まだ解明されていない部分なので、私達はいったいホンマにそんな世界があるのかいな? と疑ってしまいます。仏教では私達の今生きている世界を現世といい、次の世は未来世といいます。そして現世になる前は過去世、前世なんて言ったりします。生まれてくる前の事で、私達は何も覚えていないので、これまたそんな世界もあったのかどうか良く判らない。今回は、そんな見えないあの世について深く考えてみたいと思います。

人が死ぬ時はお迎えが来る

まず人は死期が近づくと肉体と魂が離れやすくなります。危篤状態になったりすると、自分の肉体から魂は一時的に離れることが出来る不安定な状態となります。

その時期に出会うのが、ご先祖との魂なのです。このご先祖の存在を素直に受け入れて、一緒について行けるようだと安らかな死を迎えます。ところが素直にこのお迎えを受け入れられず、この世に留まろうとする執着が強いと、身体が死を迎えた時に、心だけが留まり不成仏の魂となってしまうのです。



臨終の事を
習うて

後に他事を習うべし

確かに、突然の事故やアクシデントで亡くなった場合には、素直に死を受け入れにくいことでしょう。ある程度、齢を重ねて天寿を全うすれば、寿命だと納得出来ると思いますが、事件や事故・自然災害など本人が全く予想していなかった死を受け入れるのは、確かに難しいと思います。しかし私達は「生」を持って生まれ、生きてきた以上は致死率100%。だからこそ日々の私達の生き方が重要となってくるのです。

自分自身が毎日を大切に生き、充実した時間を重ねていく。その努力を怠らなければ、後悔は最小限となります。いつ終わりが来ても死を素直に受け入れられる状態になるのです。



お題目の波動

皆さんは、パワースポットという場所に行くとか「運氣が上がる」とか「良いことが起きる」なんていうイメージを持たれていると思います。そのような場所は強い気（エネルギー）があるため、自分自身の気が弱っているとその強いパワーを十分に活かせない事があります。抗がん剤を身体に入れるのは、それなりに体力が必要なのと同じです。

お寺という場所は、毎日お経が上がり、非常に強いプラスのエネルギーに満ちている場所です。ですから、皆さんもお寺で、お祈拝を受けたたり御守りをもらったりする場合には、ご自身にお題目の信仰を持っておられないと効力は半減されます。逆に、ご自身がお題目をよく唱え、信仰をキチンと持っておられると、お祈拝の力だけではなく、その様子を御覧になられている仏さまや諸天、そしてご先祖の魂が手を差し伸べてくださり運氣は上がっていくのです。



執着する
魂は霊へと

死を受け入れられず、この世の何かに執着し続ける、その魂は「霊」となります。ここでは死んでいるのに、この世に留まり続ける「魂」の事を「霊」と呼ぶことにします。霊になってしまふと転生も出来ずに、この世に留まり続ける事になります。強い「負」の思いを持ち続けたまま亡くなると、お迎えにも気がつくことが出来ません。その想いが土地や家に付くと「地縛霊」となり、感情に引きずられて留まると「浮遊霊」となります。感情というのは誰かに対する「怨み」や「怒り」だけでなく、「後悔」「嫉妬」等という自分に向けられた強い思いも亡くなると霊になります。また不慮の事故で急に命を奪われた場合は死を受け入れられず、やはりその場に霊として留まろうとしますのです。



生きた人間も引きづられる

悪い霊は同じ波動の霊を引き寄せ合い、その波動は無念に感じていた内容によって分かれまゝです。「借金」「失恋」「仕事」「生活苦」「勉強」等、同じ心の負担を抱えていた霊が集まるのです。そしてその不成仏の霊達は、仲間を集めようとする作用が働くので、私達が同じような悩みをもつて、そういう場所に足を踏み入れると引きつられて死に至るケースがあります。悩みを抱えた人が心を閉ざして負の波動をもったまま自殺の名所に足を踏み入れると、大変危険です。私



命の核の魂とは
真珠のようなもの

「魂」という言葉には「タマ」という響きが入っています。



「球」「玉」「珠」「彈」「卵」そんな文字が頭に浮かびます。丸い物やはち切れそうに膨らんだ物、艶々とした貴重な物や大切に熟成されたもの等がインスピレーションとして出てくるのでは無いでしょうか。生まれてまもない間は、まっさらであつた「たましい」が年月をかけて段々色づいていきます。『三つ子の魂、百までも』と言われるように、人間の核となる部分は、幼児期が一番大切となります。その後は、徐々に家庭や環境、学校教育などを通して少しずつ色が濃くなっていきます。命を頂いて生きている間は、それが性格となり気質となり人格となります。時間をかけて熟成されるので、ちょうど貝の中で真珠が育っていくような感じです。ゆっくりと変化するということは、すぐに変わらないということです。今の生活様式や考え方から本当のお題目信仰を持った生活に変えていくのには、かなり高いハードルがあることも私は判っています。その上で、檀家さんには口酸っぱくお題目信仰を勧めています。日蓮聖人の生き方を共に学びたいものです。

命が尽き魂となると

電波に変わる

本文で魂は塊のイメージでお話ししました。ところが実際には肉体から離れた魂はもう塊では無いのです。よく聞かれる質問に「お墓と仏壇で同時に拝んだら、魂はどうなるのですか?」というのがあります。これは私達がカタマリとして魂を捉えているため、何となく同時に違うところで拝むと先祖が迷ってしまうとか、お骨を分骨すると魂も引き裂かれてしまう・・・というふうに感じるためです。そ

うした疑問を解決するために、私は電波の喩えを用いています。電波というのも私達の目には見えません



しかし確実に空中を飛び交っているもので、アンテナでキャッチするとブラウン管にテレビ放送が映し出されます。遠く離れていてもチャンネルを合わせ電源を入れると誰でも同じ番組を見ることが出来ます。位牌やお墓を開眼するということは、待機電流を流すということ。つまりコンセントを入れて赤のランプを点灯させることです。自分をご先祖を拝む時、ろうそくを点しお線香を立てお題目を唱えると、ランプは緑にかわりON。ご先祖が映し出されるといふことです。

[illegible]

魂のオハナシ

詳しくはお寺にお尋ねください。

寺債金会計12～3月		2021年12月1日～ 2022年3月31日
収 入 (円)		
志納金より		2,000,000
寺債金		300,000
受取利息		24
収入小計		2,300,024
11月から繰越金		4,511,381
合 計		6,811,405
支 出 (円)		
志納金へ		0
返還金		900,000
振込手数料		0
支出小計		900,000
新年度への繰越金		5,911,405
合 計		6,811,405

新年度繰越金内訳	現金	0円
	りそな普通預金	5,911,405円
	郵便振込金	0円
	合計	5,911,405円

収 入 (円)		支 出 (円)	
志納金	152,000	借入金返済	3,332,000
現金		振込手数料	0
郵便振込		支払利息	106,495
銀行振込			
利 息	17		
自我閑ろ経	9,000		
自家納骨壇	会員B型 1,200,000		
収益事業より	3,000,000		
護持会より	250,000		
寒行より	2,000		
収入小計	4,613,017	支出小計	3,438,495
11月から繰越金	3,353,771	新年度への繰越金	4,528,293
合 計	7,966,788	合 計	7,966,788

新年度繰越金内訳	現金	0円
	りそな普通預金	4,528,293円
	郵便振込金	0円
	合計	4,528,293円

建設志納者		二月	
二〇二二年十月		二〇二三年三月	
枝澤 安子	一、二二、〇〇〇円	岩根 竜子	二、〇〇、〇〇〇円
金光 則子	四、〇〇〇円	後藤 秀幸	一、〇〇、〇〇〇円
新聞 智孝	八、〇〇〇円	杉山 喜代	二、〇〇、〇〇〇円
吉田 和夫	二、〇〇〇円	秋山 榮	一、〇〇、〇〇〇円
御宝前・お供え		清澄 寺	
十月	二、〇〇〇円	三月	一、〇〇、〇〇〇円
岡松 家	二、〇〇〇円	清田 眞理子	二、〇〇、〇〇〇円
岡政 志	二、〇〇〇円	笠原 英充	二、〇〇、〇〇〇円
田中萬壽子	一、〇〇〇円	鎌田 秀美	二、〇〇、〇〇〇円
森 秀文	一、〇〇〇円	高原 和子	一、〇〇、〇〇〇円
三森 郁子	一、〇〇〇円	玉野 功	一、〇〇、〇〇〇円
九月	一、〇〇〇円	田中 敏子	一、〇〇、〇〇〇円
一月	一、〇〇〇円	中島 敏子	二、〇〇、〇〇〇円
秋山 榮	一、〇〇〇円	樋口 節子	二、〇〇、〇〇〇円
枝澤 安子	一、〇〇〇円	自我偈写経	
大橋 一夫	一、〇〇〇円	枝澤 安子	一、〇〇、〇〇〇円
大松 純子	二、〇〇〇円	鎌田 純子	二、〇〇、〇〇〇円
岡田 友行	一、〇〇〇円	鎌田 秀美	二、〇〇、〇〇〇円
門野 秀美	一、〇〇〇円	紙野 洋子	一、〇〇、〇〇〇円
鎌田 政雄	一、〇〇〇円	新野 智孝	一、〇〇、〇〇〇円
空閑 清子	二、〇〇〇円	杉山 雅成	一、〇〇、〇〇〇円
小林 二三	一、〇〇〇円	山内 悦子	一、〇〇、〇〇〇円
小島 英生	一、〇〇〇円	満座供養者	
杉山 喜代	二、〇〇〇円	春登がき	五、〇〇、〇〇〇円
砂子 家	二、五〇〇円	白井 彰	田中美美子
後藤 秀幸	一、〇〇〇円	寺報ウルトヲ	
高井 史郎	一、〇〇〇円	特別協賛金	
田中 守雄	一、〇〇〇円	鈴木 良敬	五、〇〇、〇〇〇円
高美子	一、〇〇〇円	見	
川村 真弓	一、〇〇〇円	村上 紀枝	
三本 紀枝	一、〇〇〇円	村上一	
姓名	一、〇〇〇円	見	

「あれ？
さっきの
ご先祖さまは？」

「先にあせで
待って
いるんだよ。」

「へえー」

**死んでからは
どうなるのか？**

どうやらお迎えに来た先祖は、死を確認すると先にあの世に行つて待つてゐるらしいのです。亡くなったばかりの魂は一人で中陰という霊の道を進んでいきます。そこに待ち受けるのが三途の川です。私はこの川の喩えが「四九日忌までの七日七日の関門では無いか」と考えています。中陰祀りのことは「冥土の旅」と説明し、七日忌については裁判を例に喩えて「閻魔様のお裁き」という形で私はお話をしています。しかし最近、このお説夜のお経を省略する傾向が多くなっています。無理に押しつけるものではないので、ご遺族の意向どおりに合わせますが、本当はこの中陰祀りの期間が、故人に対して遺族が一番力になれる時間だと思つています。お亡くなりになった本人が、生前からよくお題目を唱え、徳の深い方ならば魂そのものにも力があると思います。しかし生前あまり信仰も無かった方の新しい魂には、三途の川や霊道を自分の心に貯めた功德だけでは乗り越えて行く力が足りないと思うからです。だからこそ残された遺族が応援する追善供養が重要だと考えるのです。

「これはまさか、
三途の川！」

「そう！」

「映画館？
あの世に？
怖いのじゃ
ないかな？」

「あ、
実際に三途の川は、
今宵は省略して、
次は映画館に
行ってみようか。」

声に出す「こと」の大切さ

また私自身が感じている事のひとつに、「声に出す」というものがあります。よく「言葉に出さなくても心で念ずれば通じる」なんて言われることがありますが、もちろん仏さまは、全て私達の心の中までお見通し…だとは思いますが、しかし亡くなって日が浅い、自分に取って一番頼りたい両親や身近な人の魂は、まだそれほどの強いパワーを持ってはいません。だからこそ声に出して気持ちを伝えようということが大切です。自分の夢や願望も心の中で思っているだけではなく、書いたり声に出したりするほど、夢は実現に近づきます。口に出すということは公にすること、すると全ての物事は縁で繋がっている、少しずつその目標に向かって進んでいくことが出来る、本人も自分の声を自分の耳でまた聞くことになり、知らず知らずのうちに暗示にかかっているのです。もうお判りでしょう。逆に人の悪口をいうと確実に自分の運氣は下がっていきます。

**走馬灯
という
映画館**

いよいよ四十九日という中陰が満了される頃、魂は一本の映画を見ることとなります。それは、娑婆で生きた自分の人生です。その映画を客観的に見つめ直した時に、魂は大きく揺さぶられます。どんな苦しい事や困難にあつても、頑張って努力し成長してきた自分を観るのか、それとも誰も見ていないからと、悪事を働かざるをして人の気持ちを踏みにじり、欲望のままに生きていた人生を振り返るのか、その満中陰の段階で自分の次の世の居場所が判断されるワケです。自分の魂のレベルにあった世界に行くのです。仏教ではその世界を六つの道に分けています。その一番下が地獄界です。先に述べたようにあの世は物質世界ではないので、ご馳走も金も名誉もありません。娑婆で手に入れた物は全て無意味となります。頼りになるのは自分の磨いた心だけです。魂のレベルなのです。生前どれだけ徳を積んできたかが勝負となるのです。

「三途で
走馬灯を
見んだよ。」

「走馬灯
か。」

「あおれだ。」

「ここで人生を
振り返る
旅の場所が
決まるんだよ。」

「電気がかり
しんどい、地獄に
行くんだ。」

「おれ、地獄!!
大丈夫かな…」

「今宵は娑婆
だからね、でも
この機会にちゃんと
徳を積んで
みるかいかな。」

「そうする…」

地獄は本当に辛いのか？

地獄というのは、灼熱でしょうか？それとも寒いのでしょうか？色々な表現がなされ、私達は肉体的苦痛という罰を受けるイメージで捉えています。私はどちらかというと、悪い魂ばかりが集まっている世界です。お互いに足を引っ張り合つて、幾ら悔いてもナカナカ上に転生することがしづらい、そういう辛さ苦しさなのではないか、と想像しています。魂というのは同じ波動と波動で共鳴しあうのです。レベルの低い魂が無理にレベルの高い世界に紛れ込んだとしても共鳴することは無いでしょう。結局、自分のレベルにあった世界で落ち着くこととなります。よく心霊スポットなどといつて、不成就ばかりの霊が集まる所ってありますよね。悪い者が悪い魂を同じ波動で呼び寄せる悪い例です。

**生まれてから
身につけた
価値観**

私達がアレが欲しい、コレが欲しいと思うのは資本主義で生きている中から生まれた価値観です。モノを手に入れるには、お金が必要になるので働く原動力になります。しかしあの世は物質世界では無いので、モノを欲するということ概念が生まれません。そのぶん魂は清らかに浄化されていきます。つまり私達がこの世で生きて行くには「少欲知足」が大切なキーワードです。自分の欲をコントロールし、なるべく質素に、つましやかに生きる。この訓練をしておけば、執着も少なくなり安らかな死が迎えられると思います。きつとこの世に魂が転生するのも早くなると思つたのです。

「ふあー！
なかなか
刺激的な
体験だ！」

「おつかれ
さま！」

「出口」

**魂は
どうやって
いくので
しょう？**

あの世で過ごす魂は、
1周忌
3周忌
7周忌と
年を重ねる
ごとに少しずつ
浄化されて
いきます。

皆さんが考える成仏という概念に近づいてゆく…と言った方が判りやすいでしょうか？年数が経つとそれだけ娑婆世界に残してきた未来は薄れ、その人が生前に持っていた余分な色は消えていきます。そして清浄でまっさらとなった魂には、子孫を守護する神通力という力が強く宿ります。特に法華経信仰をしつかりと持っている方には自分の先祖だけでなく、沢山の仏さまや魂達が実際に護ってくれるのです。そしてこの清浄な魂には転生のチャンスが訪れるのです。

**私達は両親を選んで
産まれてきた**

転生のチャンスが訪れた魂は、母親を選びます。昨年流行した「親ガチャ」とは、子供が親を選べないという意味ですが、実際は逆です。貴方は今の自分の親を選んでこの世に生を受けたのです。魂がどんな基準で母親を選ぶのかというと、自身の願いを叶えることができそうな人に産まれようとするのです。この事を「願生」と言います。家族や先祖の繋がりが、また自分の夢が実現出来るような人を基準に選びます。しかし産む産まないは、母親の決断に委ねられます。縁あつてこの世に生を受けても、その記憶は消されて、苦しさや憂鬱もあるでしょう。しかし、その人生を好転させるのが法華経の教えなのです。

「でも、あの後
魂はどうな
っていくんだ？」

「時間かけて
浄化されて、
また生まれ
直すんだよ。」

「そうしたらまた
この世に転生
できるんだ。」

「なまほど。」

「地獄に行くの
オバケになるの
いやだし。」

「これからのために、
たくさんいいこと
しないと！」

「そうだね！」

食品ロス

2022年3月4日(金)

先日、女房と回転寿司に行った。私達はレーンの一番最後に当たる端っこの席へと案内された。最近では廻っている寿司を取るというよりは、ほとんどがタッチパネルで注文である。「まあこの方が無駄がないので、エエのかな？」なんて思いながら、さっそく私達も注文をピピッと行った。赤色マークが私達の分らしい。一番最後と言うことは、出てくる様子も見えない。「おっ？アレやな？」と思つても、手元にくるまでが結構長くて待ち遠しい。すると金色マークの寿司がトレイに乗ったまま目の前まで流れてきた。「ん？取り忘れか？じゃあ、もう一度廻るのか？」と、出口を見ていると「アレ？」出てこない。すると少し先のレーンに、またネタがのったまま金色が流れてる。最終、隣の若者も見ていたがやはり取らない。また奥にそのまま消えていき、二度とそのネタが出てくることは無かった。ここまででも私は何か胸に落ちなかったのだが、何気なく隣を見ると金色マークは、その若者の席だった。「なんやねん！自分で注文しときながら、取らんのか！」そのまま戻ってきたなら、フロアー係がテーブルへ直接持っていけば良いではないか？また愚痴になった。日本の未来を憂う。いや地球の未来かな。

異体同心 琴瑟和合

水魚の思いを成して

調理学校にすすんだ次男世海は、1年では飽き足らずフランスへ飛び更に腕を磨いた。その後、就職は「客船のcockをやりた」との事で商船三井客船株式会社に就職。3ヶ月ほど船上で連続勤務をしてから、3週間丸々休むというメリハリのある生活をしていく。しかしここ数年はコロナの影響でまともに仕事が出来ない状況であった。それでもアクティブな彼は、だまって引込んでいた。小野市の一軒家で英語が堪能な才女だった。彼女は結婚に向けての段取りを進めていた。彼女は出身で仕事の出来るキャリアウーマンである。趣味も好みも考え方も次男と合ったのが決め手のよう。2月に某ホテルで彼女の両親とも顔あわせをしたが、ウチのHPも見てくれていた。またまた向こうのお父さんと益が進んでしまったのは、長男の時と同じパターンで言うまでもない。二人が出会った6月に入籍の予定で、その前後で仏さまへの奉告式を行う。披露宴もコロナ禍の為、親族のみで済ませること。私はツペコベ言わず、若い二人に全てを任せている。

大切なのは、これからだ。2人がお互いを尊重し合っている、お題目信仰を持って長い人生を支え合っている、歩んでくれば、それで良い。二人目の娘が出来て、華やいだ気分の方からの報告パート2でした。パート3もお楽しみに。

生死一大事の血脈とは云うなり

信じるか信じないかは貴方次第です！

一つの魂に着目してみれば、生死は時間と縁によって永遠に繰り返され続けます。個性を持った命も、死によって魂となり追善供養で浄化され、白く透明無垢になっていき、やがて転生する。魂のレベルは生前の心の徳で決まってくるので、徳を積まない人生を送った人は、死後に同じ波動の悪い魂と一緒にナカナカ抜け出すことが出来ない。これを地獄と言う。徳の薄いまま亡くなった魂を浄化させられるのは、残った遺族しか出来ない。この追善供養は残された子供達の使命。育ててもらった恩を返す時。本当の親孝行のチャンス。

人間は多かれ少なかれ死を迎えた時には娑婆への未練は残るでしょう。それにケジメをつけて、真っ直ぐにあの世へ送り出すのが葬儀の役目。葬儀もしないで家族だけで見送るのが流行な時代。亡くなった故人はそれで本当に成仏できるのでしょうか。私には到底、理解出来ないことです。

亡くなった事が自覚出来ない執着の強い魂は娑婆に留まろうとします。

「霊」としてこの世に残ろうとするその気は、同じ波動の不成仏が集まって強いマイナスパワーとなります。

ご先祖がそのような状態に陥っていたら、その子孫が幸せになんてなるはずが、ありません。

この生死を繰り返すことを生死流転・輪廻といいます。繰り返しが永遠に続く事を「久遠」といいます。これは命を持つものだけで無く、この世の物質世界すべての現象に当てはまります。「有」と「無」、「起」と「滅」。我々の身の回りで起こっているすべての現象を網羅しているこの不思議な「妙法」というのです。蓮華は「花」と「実」が同時に出来ます。「苦」と「楽」この世で生きていく苦の中に、楽を見つけた考え方が法華経の思想なのです。

住職 新聞 智孝



改早く信仰の寸心を改めて



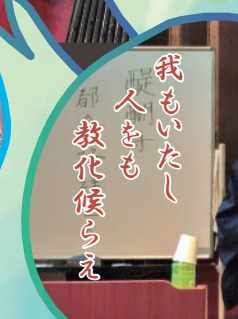
実塔また南無妙法蓮華経なり



いのちと申す物は一切の財の中に第一の財なり
早期ケガの回復祈ります



シキミの葉で瀧水



我もいたし人をも教化候え



妙法蓮華経の五字に具足す



信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



釈迦仏と法華経の文字とは変われども心は一つなり



妻の夫をおしむが如く



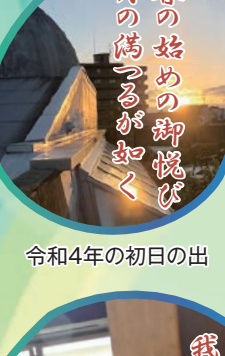
春彼岸せがき法要



節分の水行



花まつりは道場で



春の始めの御悦び月の満ちるが如く



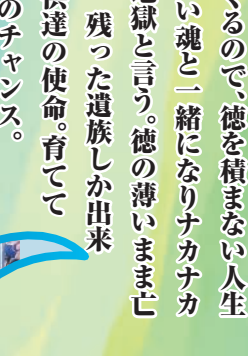
疾く疾く利生を授けたまえ



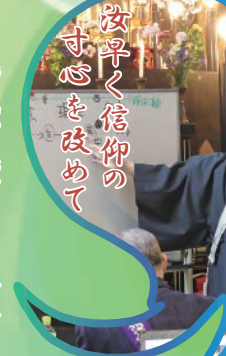
節分の年男女4名でしたが、2人は欠席で残念



釈迦仏と法華経の文字とは変われども心は一つなり



信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



妻の夫をおしむが如く



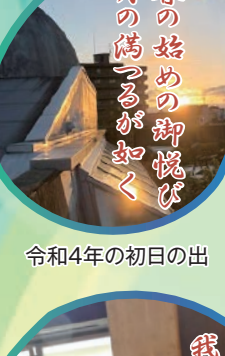
春の始めの御悦び月の満ちるが如く



花まつりは道場で



節分の水行



春彼岸せがき法要



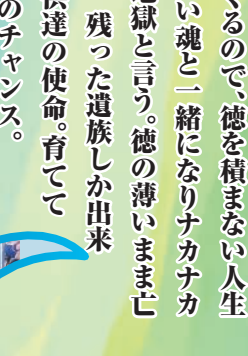
妻の夫をおしむが如く



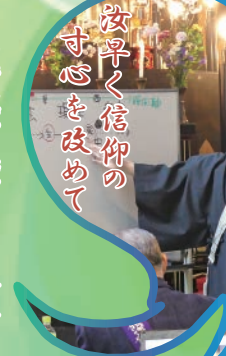
信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



釈迦仏と法華経の文字とは変われども心は一つなり



信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



妻の夫をおしむが如く



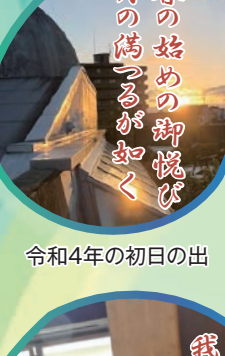
春の始めの御悦び月の満ちるが如く



花まつりは道場で



節分の水行



春彼岸せがき法要



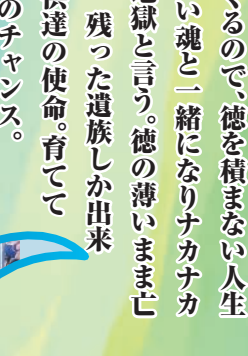
妻の夫をおしむが如く



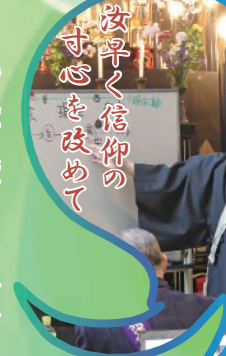
信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



釈迦仏と法華経の文字とは変われども心は一つなり



信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



妻の夫をおしむが如く



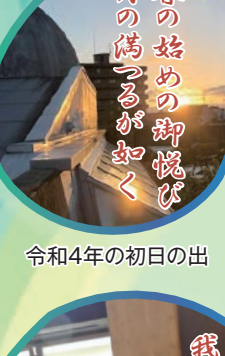
春の始めの御悦び月の満ちるが如く



花まつりは道場で



節分の水行



春彼岸せがき法要



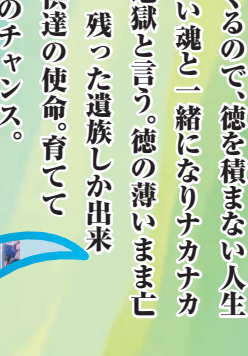
妻の夫をおしむが如く



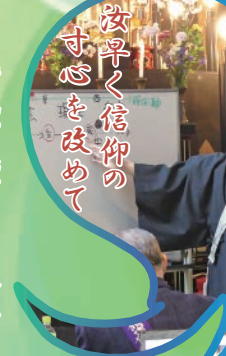
信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



釈迦仏と法華経の文字とは変われども心は一つなり



信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



妻の夫をおしむが如く



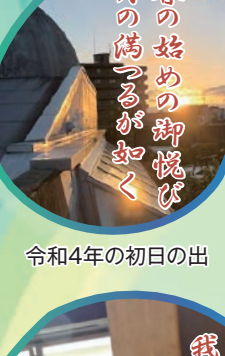
春の始めの御悦び月の満ちるが如く



花まつりは道場で



節分の水行



春彼岸せがき法要



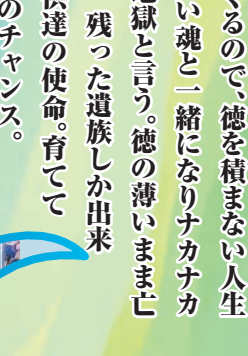
妻の夫をおしむが如く



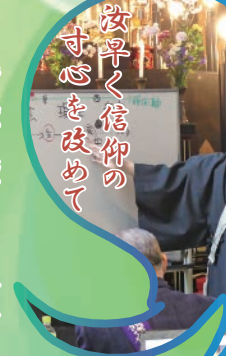
信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



釈迦仏と法華経の文字とは変われども心は一つなり



信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



妻の夫をおしむが如く



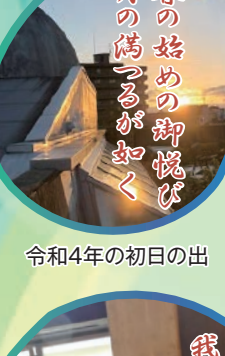
春の始めの御悦び月の満ちるが如く



花まつりは道場で



節分の水行



春彼岸せがき法要



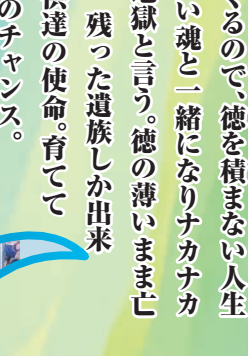
妻の夫をおしむが如く



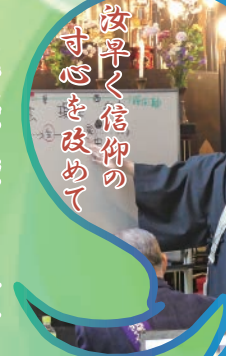
信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



釈迦仏と法華経の文字とは変われども心は一つなり



信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



妻の夫をおしむが如く



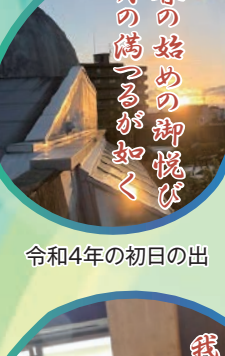
春の始めの御悦び月の満ちるが如く



花まつりは道場で



節分の水行



春彼岸せがき法要



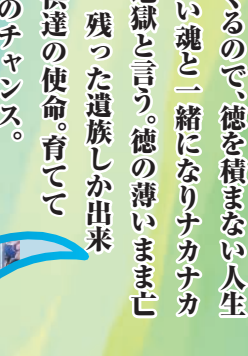
妻の夫をおしむが如く



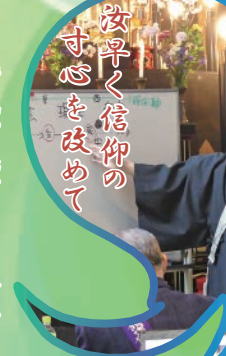
信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



釈迦仏と法華経の文字とは変われども心は一つなり



信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



妻の夫をおしむが如く



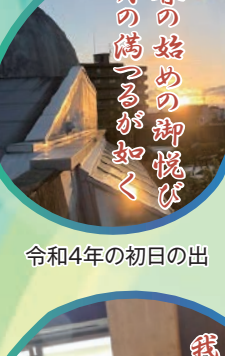
春の始めの御悦び月の満ちるが如く



花まつりは道場で



節分の水行



春彼岸せがき法要



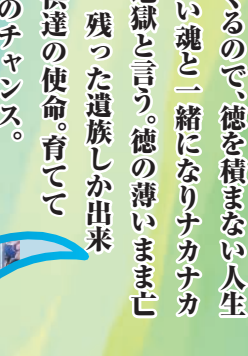
妻の夫をおしむが如く



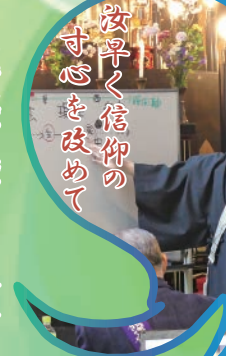
信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



釈迦仏と法華経の文字とは変われども心は一つなり



信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



妻の夫をおしむが如く



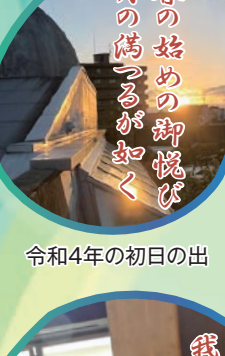
春の始めの御悦び月の満ちるが如く



花まつりは道場で



節分の水行



春彼岸せがき法要



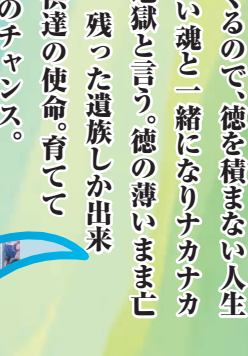
妻の夫をおしむが如く



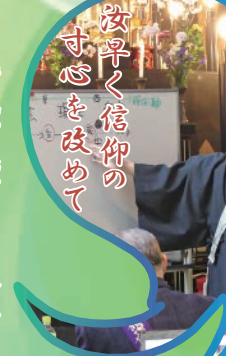
信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



釈迦仏と法華経の文字とは変われども心は一つなり



信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



妻の夫をおしむが如く



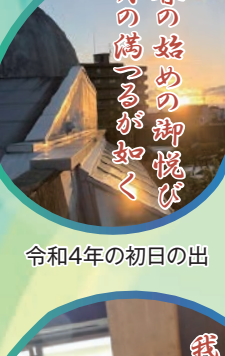
春の始めの御悦び月の満ちるが如く



花まつりは道場で



節分の水行



春彼岸せがき法要



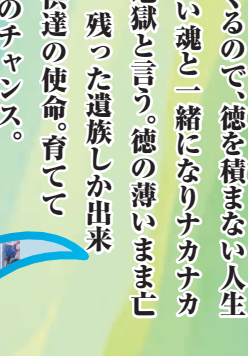
妻の夫をおしむが如く



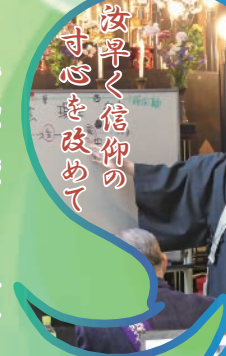
信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



釈迦仏と法華経の文字とは変われども心は一つなり



信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



妻の夫をおしむが如く



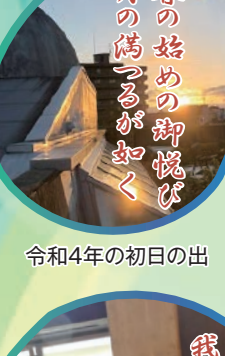
春の始めの御悦び月の満ちるが如く



花まつりは道場で



節分の水行



春彼岸せがき法要



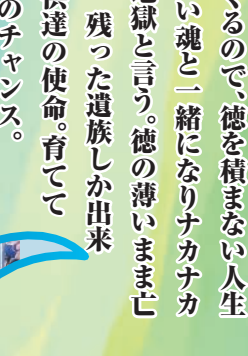
妻の夫をおしむが如く



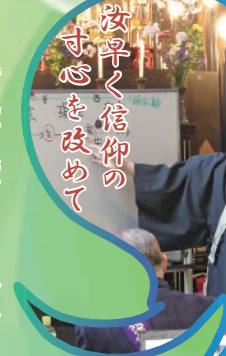
信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



釈迦仏と法華経の文字とは変われども心は一つなり



信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



妻の夫をおしむが如く



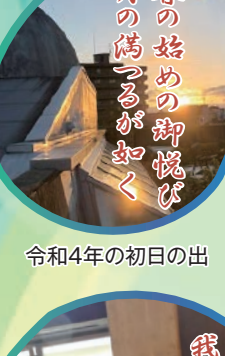
春の始めの御悦び月の満ちるが如く



花まつりは道場で



節分の水行



春彼岸せがき法要



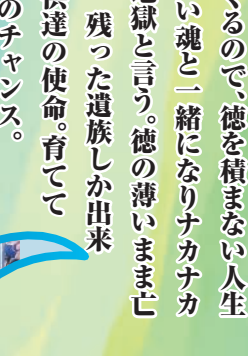
妻の夫をおしむが如く



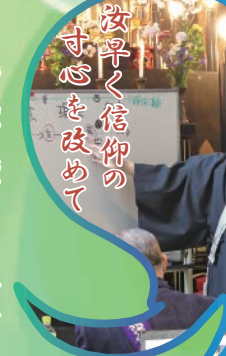
信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



釈迦仏と法華経の文字とは変われども心は一つなり



信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



妻の夫をおしむが如く



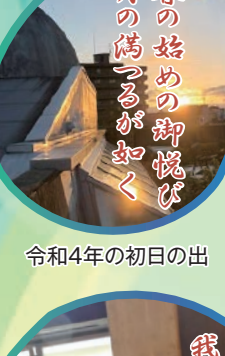
春の始めの御悦び月の満ちるが如く



花まつりは道場で



節分の水行



春彼岸せがき法要



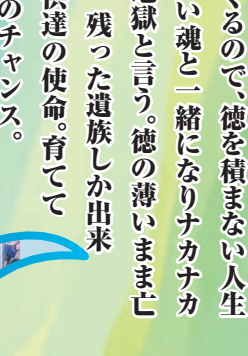
妻の夫をおしむが如く



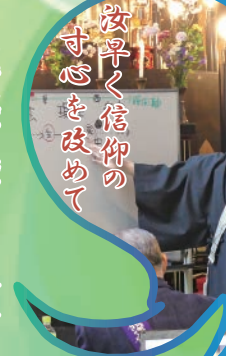
信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



釈迦仏と法華経の文字とは変われども心は一つなり



信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



妻の夫をおしむが如く



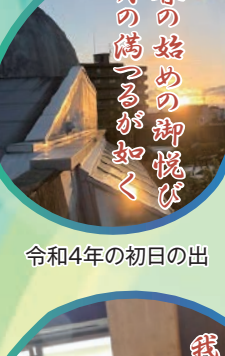
春の始めの御悦び月の満ちるが如く



花まつりは道場で



節分の水行



春彼岸せがき法要



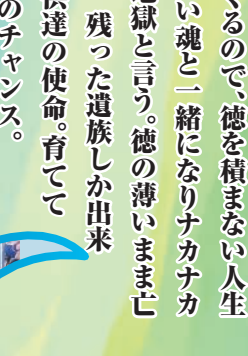
妻の夫をおしむが如く



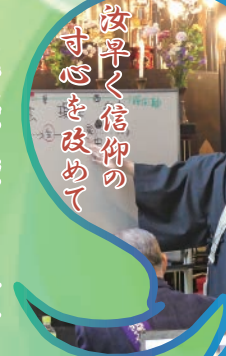
信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



釈迦仏と法華経の文字とは変われども心は一つなり



信心の血脈なくんば法華経を持てども無益なり



妻の夫をおしむが如く



春の始めの御悦び月の満ちるが如く

